

第2回

かながわ 脱炭素大賞

主催：神奈川県／tvk（テレビ神奈川）



令和7年度
受賞者紹介

神奈川県環境農政局脱炭素戦略本部室
TEL 045-210-4076

かながわ脱炭素大賞

検索



私たち一人ひとりの行動が、
未来につながる。

SDGs 未来都市 神奈川県

応募及び 県推薦の状況と 選考結果

県では、2050年脱炭素社会の実現に向けて、県民や事業者など、様々な主体と連携して「オール神奈川」で取り組んでいくため、株式会社テレビ神奈川との共催により、脱炭素に関する優れた取組を行った個人や事業者、学校等の功績を称える表彰制度「かながわ脱炭素大賞」を実施しています。第2回目となる今回は、一般公募（令和7年5月28日～同年7月31日）で応募があった26者と県が推薦した5者について、有識者等による審査委員会で審査を行い、計16者を受賞者として決定しました。

	応募数	県推薦数	受賞数
普及・促進部門	13	-	6
事業活動温暖化対策計画書制度部門	-	5	3
建築物・特定開発事業温暖化対策計画書制度部門	-	-	-
先進技術・導入部門	9	-	4
ユース未来部門	4	-	3



かながわ脱炭素大賞受賞者一覧

(敬称略・五十音順)

【普及・促進部門 (6者)】

- 湘南国際マラソン実行委員会(マイボトル・マイカップをはじめとするエコマラソンの取組)・・・P.3
- 日榮新化株式会社、TOPPANインフォメディア株式会社
(ラベル台紙の水平リサイクル事業「資源循環プロジェクト」)・・・P.3
- ハーチ株式会社(メディアプラットフォーム「Circular Yokohama」の運営)・・・P.4
- NPO法人ふるさと環境市民(地域で紡ぐ地球の未来)・・・P.4
- NPO法人ふるさとファーマーズ(不耕起栽培を通じた土壌炭素貯留による脱炭素への挑戦)・・・P.5
- 株式会社REXEV
(電気自動車に特化したエネルギーマネジメント連動型カーシェアリング「eemo(イーモ)」)・・・P.5

【事業活動温暖化対策計画書制度部門 (3者)】

- Astemo株式会社(計画期間:令和3年度～令和5年度)・・・P.6
- 株式会社日立システムズ(計画期間:令和元年度～令和5年度)・・・P.6
- 横浜信用金庫(計画期間:令和元年度～令和5年度)・・・P.7

【先進技術・導入部門 (4者)】

- 株式会社新日本海洋社、京浜ドック株式会社
(アンモニア燃料を使用した商用船の建造及び運航)・・・P.7
- 東京ガスエコモ株式会社(洋光台ビルの省エネルギー改修及びBCP対応)・・・P.8
- 東京メータ株式会社(「電気×空気のW省エネ診断」サービス)・・・P.8
- 株式会社MURONE(廃棄されていた規格外農作物のアップサイクルで減プラ40%を実現)・・・P.9

【ユース未来部門 (3者)】

- 厚木市立森の里小学校(学校起点に脱炭素「廃食用油を持続可能な航空燃料に!」)・・・P.9
- かながわ脱炭素市民フォーラム・ユース部
(若者主導で開催!「かながわユース気候会議」とそのアクションプランの実現)・・・P.10
- 慶應義塾大学 厳網林研究室(フードデザインゲームの開発と展開)・・・P.10

普及・促進部門

受賞者名 **湘南国際マラソン実行委員会**

取組の名称 **マイボトル・マイカップをはじめとするエコマラソンの取組**

取組の概要

- 令和4年度大会より、世界で初めてコース上での使い捨てカップ・ペットボトル排出ゼロを実現した。
- 何度でも使えるリターナブル容器を用いた給水、ステンレス製給水器の導入など、他大会には見られない環境配慮型運営を構築した。

主な功績

- フルマラソンの参加者にマイボトル携行を義務付け、給水ポイントを約200カ所設置し、約6トン(170,000本の500mlペットボトル製造時のCO₂排出量)のCO₂削減を達成した。
- 令和6年度大会後のアンケートでは、フルマラソン出走ランナーからの回答4,932件のうち95.4%が給水方式に賛成した。



【普及・促進部門】

受賞者名 **日榮新化株式会社、TOPPANインフォメディア株式会社**

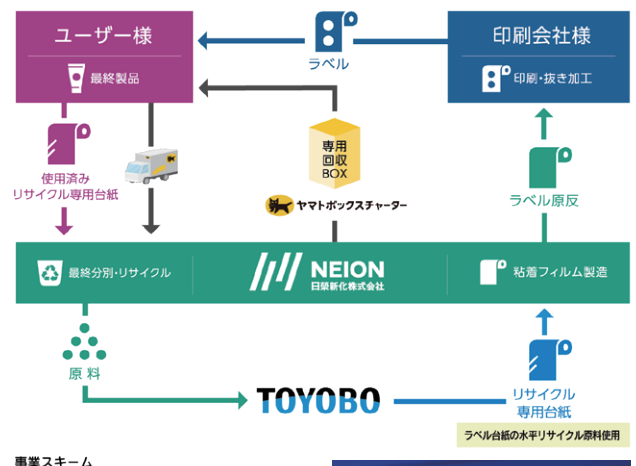
取組の名称 **ラベル台紙の水平リサイクル事業「資源循環プロジェクト」**

取組の概要

- 様々な業種・業態で大量廃棄されてきたラベル台紙を、「リサイクル専用台紙」に置き換え、ユーザー使用後の専用台紙を回収・マテリアルリサイクルし、再びリサイクル専用台紙の原料として使用している。

主な功績

- 全国のラベルユーザーへの普及啓発を行い、県内の事業者ほか、参画団体数は全国で47にのぼる(応募時点)。
- 専用のフィルム素材を用いて、独自の回収スキームやリサイクルシステムを構築することで、事業者の参画を促している。



受賞者名 **ハーチ株式会社**

取組の名称 **メディアプラットフォーム「Circular Yokohama」の運営**

サーキュラー

ヨコハマ

▶取組の概要

- メディアプラットフォーム「Circular Yokohama」を運営し、サーキュラーエコノミー(循環経済)の視点から、脱炭素行動のきっかけとなる普及・啓発を進めている。
- 体験型イベントや出前講座などの実践機会を組み合わせた活動を、行政や企業等と連携して展開し、地域に根ざした脱炭素行動を実践、啓発している。

▶主な功績

- ウェブメディア「Circular Yokohama」では年間120本(令和6年)の記事を公開し、閲覧数は約12万件となった。
- 令和3年にサーキュラーエコノミー学習プログラムに県内外から延べ200人以上が参加し、以降、県内10校以上で授業や講座を提供している。



【普及・促進部門】

受賞者名 **NPO法人ふるさと環境市民**

取組の名称 **地域で紡ぐ地球の未来**

▶取組の概要

- 30年間にわたり、地域での脱炭素の啓発を継続している。
- 子どもたちに楽しく分かりやすく伝えるため、「おもしろ博士大集合!」(エネルギー博士、おひさま博士など)の出前講座を開催している。
- 太陽のエネルギーを利用して食材を調理するソーラークッカーを活用した啓発等も実施している。

▶主な功績

- 神奈川県为学校派遣事業として実施した講座での啓発人数は、平成18年以降、4,000人以上となっている。
- 出前講座の際、講師は博士の衣装を着用するほか、大型絵本を作り、昔と今のライフスタイルの違いを見せるなど子どもたちが喜ぶ工夫を重ねている。



受賞者名 **NPO法人ふるさとファーマーズ**

取組の名称 **不耕起栽培を通じた土壌炭素貯留による脱炭素への挑戦**

▶取組の概要

- 茅ヶ崎市北部において、不耕起・無農薬の畑と水田（計約5,500㎡）を活用し、耕作放棄地の再生と脱炭素農法の実践に取り組んでいる。
- 学校との連携による出前授業や、福祉施設との交流農園づくり、企業研修プログラムなど多様な共同体制のもとで展開している。



▶主な功績

- 小学校での出前授業及び学校内での畑づくり、親子向け農業体験会、企業研修など多様な形での参加機会を提供し、令和2年以降、延べ800人以上が参加している。
- 県内の小中学校と連携し、年間20回以上の授業や農体験を実施。子どもたちに環境への意識を育む教育活動も展開している。



【普及・促進部門】

受賞者名 **株式会社REXEV**

取組の名称 **電気自動車に特化したエネルギーマネジメント連動型カーシェアリング「eemo(イーモ)」**

▶取組の概要

- 小田原市を中心に、電気自動車に特化したカーシェアリングサービス「eemo(イーモ)」を提供し、自家用車を持たないライフスタイルを提案している。
- 小田原市と協力し、小学生向けに子ども教室を開催。地元法人や交通事業者と連携し、電気自動車に関する普及啓発を実施している。

▶主な功績

- 県内にステーション17箇所33台、県外にステーション30箇所46台を配備しており、サービス会員数は約7,200人にのぼる。
- 電気自動車の車両台数は79台、総利用回数は70,809回、活動エリアは9都県市にわたる。



※ステーション数、車両台数、利用回数、会員数などは全て令和7年5月末時点

事業活動温暖化対策計画書制度部門

アステモ

受賞者名 **Astemo株式会社**

計画期間 令和3年度～令和5年度

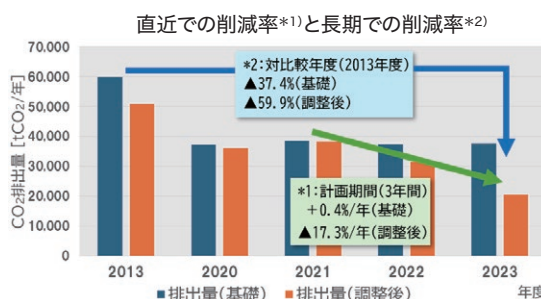
取組の概要

- 厚木第一工場・厚木第二工場の電源供給変圧器の高効率型への更新や、コンプレッサーの更新を実施し、省エネの取組を推進した。
- 調整後排出係数※ゼロの電力の導入(令和5年度:全使用電力の約50%)や、秦野工場への150kWの太陽光発電設備の設置により、再エネの利用を推進した。

※調整後排出係数:発電に伴うCO₂排出量に、再生可能エネルギーの利用などによるCO₂削減分を勘案した指標

主な功績

- 直近の3年の計画期間内ならびに平成25年度以降の長期間に渡って顕著なCO₂削減率を達成した。



厚木第一工場
コンプレッサー
更新



厚木第一工場
高効率アモルファス
変圧器への更新



秦野工場
令和5年度 太陽光発電設備設置

【事業活動温暖化対策計画書制度部門】

受賞者名 **株式会社日立システムズ**

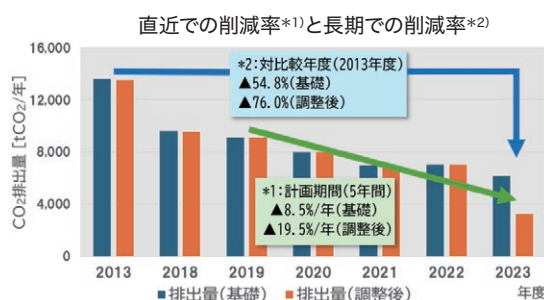
計画期間 令和元年度～令和5年度

取組の概要

- 湘南オフィスの空調動力盤、変圧器を高効率型の機器に更新し、老朽化した空調設備の更新や蛍光灯のLED化を進め、省エネの取組を推進した。
- 令和5年度には全使用電力の約40%に調整後排出係数ゼロの電力メニューを導入し、再エネの利用を推進した。

主な功績

- 直近の5年の計画期間ならびに平成25年度以降の長期間に渡って顕著なCO₂削減率を達成した。



湘南オフィス
令和5年度 再エネ電気利用開始



湘南オフィス
高効率空調設備
への更新

受賞者名 横浜信用金庫

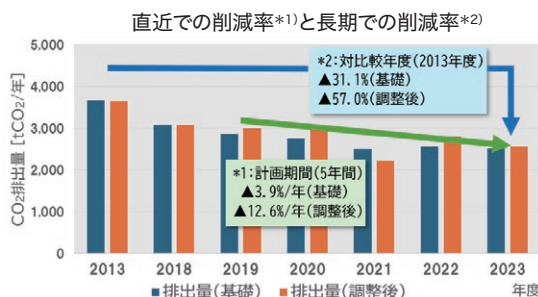
計画期間 令和元年度～令和5年度

取組の概要

- 本店ビルを含む各店舗の空調設備の更新や、LED照明への更新を進め、省エネの取組を推進した。
- 令和元年度から調整後排出係数ゼロの電力の導入を開始し、徐々に導入比率を高めて計画期間の最終年度には全使用電力の30%以上を導入し、再エネの利用を推進した。

主な功績

- 直近の5年の計画期間内ならびに平成25年度以降の長期間に渡って顕著なCO₂削減率を達成した。



本店ビル
令和元年8月
再エネ電気利用開始



北新横浜事務センター
令和3年12月 再エネ電気利用開始

先進技術・導入部門

受賞者名 株式会社新日本海洋社、京浜ドック株式会社

取組の名称 アンモニア燃料を使用した商用船の建造及び運航

取組の概要

- 京浜ドック株式会社は平成27年に建造されたLNG(液化天然ガス)燃料曳船※を、10か月という短い期間で世界初の商用利用を前提とした、CO₂を排出しないアンモニア燃料を使用した船へ改造した。
- 株式会社新日本海洋社は令和6年8月23日の竣工と同時にアンモニア燃料曳船の運航を開始し、今日に至るまで横浜・川崎などで安全運航を継続している。

※曳船(えいせん): 港に入出港する大型船舶の離着岸作業を補助するタグボート

主な功績

- 従来の重油燃料船と比較し温室効果ガス排出量を最大90%以上(高負荷定常時)削減することに寄与。
- 世界初の本格的な商用利用が可能なアンモニア燃料船である。

アンモニアタンクローリーから供給を受ける「魁(さきがけ)」



受賞者名 **東京ガスエコモ株式会社**

取組の名称 **洋光台ビルの省エネルギー改修及びBCP対応**

ショールームの外観

▶取組の概要

- 太陽電池は天候や設置条件の制約を受けるため、自家発電設備として燃料電池も設置し、蓄電池、V2H※(EV)も加えた「4電池」を一つの通常時及び非常時の電力供給システムとして構築した。
- 1Fショールームを市民への環境商材に関する情報発信の場とし、また災害時に簡易避難場所として解放できるようにした。

※V2H:EVなどのバッテリーに貯めている電力を家で使えるようにする機器

▶主な功績

- 横浜市内の自社ビルに太陽電池、蓄電池、燃料電池、V2H、EVを導入し、事業活動における温室効果ガスを年間約12トン削減した。
- 燃料電池の排熱を給湯に利用することで給湯に使用するガス消費量も削減した。



EV・V2H

【先進技術・導入部門】

受賞者名 **東京メータ株式会社**

取組の名称 **「電気×空気のW省エネ診断」サービス**

▶取組の概要

- コンプレッサーなどで作られる圧縮した空気をエネルギー量(kW)で数値化する技術を川崎市内で開発した。
- 製造業では電力だけでなく空気圧も多くのエネルギーを消費しており、電力と空気圧のエネルギーを同時に測定・分析することで、エネルギーの無駄の削減を可能にした。

▶主な功績

- 圧縮した空気をエネルギー量で数値化する技術は世界初である。
- 本技術により、製造現場において電力の20~30%を占める空気圧について、エア漏れや圧力損失等を可視化できるようになった。



空圧計測器
(エアパワーメータ)



受賞者名 株式会社MURONE

▶取組の概要

- ## ▶ 主な功績

-
- 廃棄トマトを集めて
カルトンをつくりました
- 無着色、無着色
自然の色で表現しています
- トマトカルトンの製造工程イメージ
- 1 田舎から収穫トマトを
じりが集約します
- 2 市内の加工工場にて
乾燥、殺菌します
- 3 乾燥と混ぜて
トマトカルトンの完成
40%がトマトから
できています

受賞者名 厚木市立森の里小学校

▶取組の概要

-
- The collage consists of three photographs documenting the project. The left photo shows a man in a light blue shirt and dark trousers standing with three children wearing green hard hats. They are holding up their drawings. The top right photo shows a group of children in green hard hats and school uniforms looking at a drawing of a train. The bottom right photo shows a child holding a drawing with a large 'S' and arrows, with a small caption below it.

受賞者名 **かながわ脱炭素市民フォーラム・ユース部**

取組の名称 **若者主導で開催！「かながわユース気候会議」とそのアクションプランの実現**

▶取組の概要

- 脱炭素施策を推進するため、若者主体で企画・広報・運営する「かながわユース気候会議」を開催し、議論を行い、自治体や企業などに伝えたい脱炭素に関する「8つの提言」と「6つのアクションプラン」を作成した。
- 脱炭素な住宅を推進するため、メディアや企業の協力を得ながら、専門家を招いた講義など「かながわ住宅シンポジウム」を開催した。

▶主な功績

- 「かながわユース気候会議」を通してとりまとめた提言やアクションプランを、行政や企業に成果物として展開した。
- また、県内事業者、工務店、市民団体などと連携して、「私たちの家(地球)」を守る家づくりキャンペーンを実施するなど、脱炭素な住宅を推進した。



【ユース未来部門】

受賞者名 **げんもうりん 慶應義塾大学 飯網林研究室**

取組の名称 **フードデザインゲームの開発と展開**

▶取組の概要

- 食の生産・輸送・販売・消費におけるCO₂排出量を市民にわかりやすく伝えるため、食の流通に関する大量のデータを基に、レシピ・献立などからCO₂排出量がわかる体験型フードデザインゲームを、企業等と連携し、湘南藤沢キャンパスの研究室において開発した。
- 未就学児から大人まで多様な年代層に楽しんでもらえるイベントを行った。

▶主な功績

- 令和3年以降、藤沢市、横浜市、川崎市、秦野市、平塚市の施設や企業または神奈川県主催などの各種の公開イベントに合計12回出展し、合計700組・人以上の参加者が体験した。
- 未就学児でも食材モデルの重さでCO₂排出量を体感できるよう工夫した。



2050年

脱炭素社会の実現を目指します!



神奈川県では、令和6年3月に神奈川県地球温暖化対策計画を全面改定し、脱炭素社会の実現に向けた取組を加速させています。ここでは、神奈川県地球温暖化対策計画の概要についてご紹介します。

計画期間 2024(令和6)年度から2030(令和12)年度まで

基本方針 未来のいのちを守るため、脱炭素社会の実現に向けて多様な主体が気候変動問題を**自分事化**し、**オールジャパン**、**オール神奈川**で緩和策と適応策に取り組む。

基本方針

長期目標

2050年脱炭素社会(カーボンニュートラル)の実現

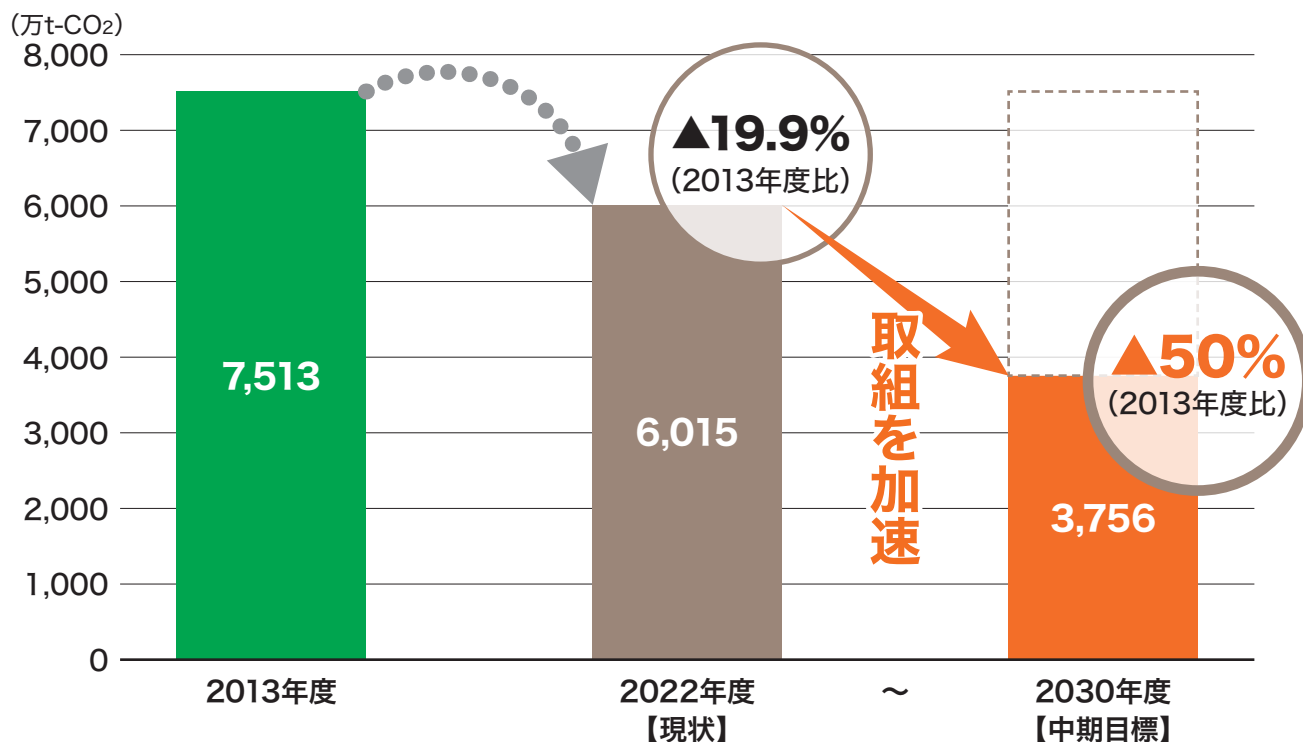
中期目標

2030年度の県内の温室効果ガス排出量を
2013年度比で50% 削減

太陽光発電導入目標

2030年度までに200万kW以上導入

2013年度と比較して、温室効果ガスの排出量は着実に減少してきているものの、脱炭素社会の実現に向けて、取組を加速させる必要があります。



詳細な内容は、「かながわ脱炭素ポータル」をご覧ください。
これまでの受賞者(一部)のインタビューも掲載しています

<https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0502/kanagawa-datsutanso-portal/>

